

ISO9001:2015 及び ISO14001:2015 に於ける気候変動に関わる追補版発行について

1. 概要

ISO9001:2015 及び ISO14001:2015 に於いて、その箇条 4.1 項及び箇条 4.2 項に気候変動の考慮を求める記述が追加され、追補版(Amd 1:2024)として発行されました。具体的には下記の通りです。

4 組織の状況

4.1 組織及びその状況の理解

【追加】組織は、気候変動が関連する課題かどうかを決定しなければならない。

4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

【追加】注記：関連する利害関係者は、気候変動に関する要求事項をもつ可能性がある。

なお、現時点では JIS 規格の追補版は発行されていません。

2. 追補版発行の背景

ISO は、2021 年のロンドン総会で、気候変動に関する「ロンドン宣言」を行い、気候変動に総力を挙げて取り組んでいくことを宣言しました。この具体的施策の一環として、既存の多くのマネジメントシステム規格(例：ISO14001:2015、ISO9001:2015、ISO/IEC27001:2022、他)に対して、上記 1 項の記述が追加されました。

これは、気候変動の課題を認証組織が考慮することを確実にすることを意図しており、規格箇条 4.1 項及び 4.2 項の全体的な意図に変更はないとされています。つまり、箇条 4.1 項及び 4.2 項には、マネジメントシステムの有効性に影響を与える全ての内部及び外部の課題を考慮する必要性が既に含まれており、多くの組織は既に気候変動に配慮している、としています。

3. 認証組織に求められる対応

1) トップインタビューを含め、現地審査時に下記を説明できるようにしてください。

①気候変動が関連する課題かどうかを決定していること。

②「気候変動は関連する課題ではない」と決定している場合は、その妥当な根拠。

なお、「気候変動に関連する課題」には気候変動と類義の課題を含みます。

例：地球温暖化、異常気象、夏季の猛暑、冬季の極寒、集中豪雨の頻発、水害の頻発、

省エネルギー、電力の使用、温室効果ガスの排出、CO2 の排出、脱炭素社会への対応、他
また、気候変動と間接的に関連する課題も含みます。

例：生産の効率化（による電力使用量の削減）、廃棄物排出量の増加（による廃棄物処分場に於ける電力使用量の増加）、生産量増大（による電力使用量の増加）、製品品質の向上（による不適合品に対応するための電力使用量の削減）、他

2)必要あれば、QMS 文書/EMS 文書への反映をお願いします。

例：品質マニュアル/環境マニュアル等の基準文書、外部及び内部の課題を明確にした文書、他

4. BSK としての対応

- 1) 今後の認証審査に於いて、上記 3 項の対応状況等を確認し、該当する場合は、従来の審査同様、リスク及び機会への取組み、品質目標/環境目標への展開状況等を確認します。
- 2) 追補版の適用に伴う、認証書の改訂は行いません。

5. 参考文書

ISO、IAF、JAB からの発信情報

- 1) IAF 及び ISO 共同コミュニケ (和訳)

https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_6181.pdf

- 2) IAF TC の決定 (和訳)

https://www.jab.or.jp/cms/uploads/0401-1_2e71ae0ac8.pdf

- 3) マネジメントシステム規格 気候変動の追補版の対応について (JAB 発行文書)

https://www.jab.or.jp/cms/uploads/0402-1_db77231ebe.pdf

注) IAF : 「国際認定フォーラム」の略称。各国の認定機関 (日本の場合は JAB) などが加盟する、相互承認協定などの連携を図るための国際機関・会議体。

IAF TC : IAF の技術委員会

JAB : 公益財団法人 日本適合性認定協会

以上